

島国をでるという選択

応用化学科3年 中井 啓博



初夏の訪れを肌を感じはじめていた2年生のある日、学務課から一通のメールが届きました。イギリスの名門大学UCLの留学選抜に関するメールでした。

1年生の春にも一度留学を経験していた私はすぐに面接を決意しました。留学に関する概要は、期間3週間、奨学金として常盤工業会より留学費用の一部支援、UCLのプログラムに沿った授業、ドミトリー（寮）での生活、お寺での研修というようなものでした。面接後はテストを受け、学務課の指示に従いながら着々と準備を進めていきました。8月にフィリピンに語学留学していた私は、帰国してイギリス出発まで、4日しか日本に滞在できなかつたため、メンバーに仲のいい友人はおらずかなり不安な状態での旅のスタートとなりました。

最初の一週間はお寺での研修でした。ここでは早朝からお寺のおつとめをしたり、長州五傑について学んだり、仏説父母恩重経を読んだりしました。最初はなぜ寺なのか、なぜ留学とは関係のないことをしなければならぬのか、と嘆いていた私はその愚考を改めることとなりました。仏説父母恩重経を読み解くうちに、父母の苦勞を痛感し、感謝で胸がいっぱいになりました。今でもこの時の経験は自分を見つめなおすいい機会になったと感じています。また、長州五傑や、異国の地において夢半ばにして殉職した日本人のことを学んでいくうちに、「俺がこんなダラダラと生きていていいのか。恥ずかしい。俺も絶対

に何かを成し遂げて、日本を変えたいという先人たちの意思を体現してやる。」と胸に大きな炎が燃えあがるのを感じました。お寺での研修を経て、生活にも慣れ、メンバーとも仲よくなった私はUCLでの研修生活をスタートしました。

UCLでの生活はかなり充実していました。ドミトリーの朝食を食べ、UCLの授業に参加、放課後は自由時間でした。UCLでの授業はレベルが高く、最先端の技術や学術に触れることができました。この経験は帰国後も自身の学習のモチベーションにつながりました。海外の研究や学問に直接触れることは稀な経験であり、人生において大きな意味をもたらすと思います。

自由時間はメンバーたちと観光地や博物館など様々な場所を訪れ、日本とは違う空気を肌で感じていました。日本では当たり前、常





識だと思っていたことが簡単に覆されてしま
う、そんな経験を通して環境適応能力を磨き、
見聞を広げていく刺激のある毎日であったこ
とを今も覚えています。様々な観光地を訪
れ、インスタ映えする写真を撮りまくり、カ
ルチャーショックを体験しまくった私は、後
日様々な場面で話のネタとしてこの留学の話
を展開するスキルも身につけました。

順風満帆に見える留学生活も現実には苦難
に直面することも多々ありました。まず挙げ
られるのが言語の壁ですが、異国の地に足を

つけ、右も左もわからない状況の中、母国語
ではない言語で話しかけられると、普段は聞
きとれる単語や文章であっても一瞬パニック
に陥ることがあります。常日頃から英語（ほ
かの言語も含め）に接しているということが
大事だと思いました。これから海外に行く予
定のある方は、出発までの期間に関わらず毎
日少しでも英語に触れておくことを勧めしま
す。次に食事の問題ですが、イギリスの食事
は日本人に合わないことも多く、体調を崩す
方もおられるようです。キャリーバッグに
は、少量でいいので普段口にしていないイン
スタントフードなどを忍ばせておくことが賢明
です。

留学というのは苦労や困難を伴いますが、
それを克服しようと自分で解決していくこと
が必ず自己成長に繋がると思います。人間誰
しも必要に迫られないと動き出すのは億劫な
ものですが、今回の留学で、まず自ら動き、
実際に自分の目で見ることの大切さを学びま
した。それがまた自身の行動力の発展につな
がっていると思いました。社会人になると金
銭面や時間の関係で難しくなるので時間のあ
る学生時代に挑戦し、自らの足で、自らの目
で確かめてみてはどうでしょうか。留学とい
う経験の中で様々なことを発見し、自分を見
つめなおすいい機会になると思います。一度き
りの人生、一度くらいは日本を飛び出し、島
国の外の世界に足を踏み入れてみるという選
択もありなのではと思います。

学生のみなさま

常盤工業会奨学金制度について

常盤工業会奨学金制度の詳細につきましては、山口大学工学部ホームページを
参照ください。ご不明な点につきましては工学部学務課にお問合わせください。